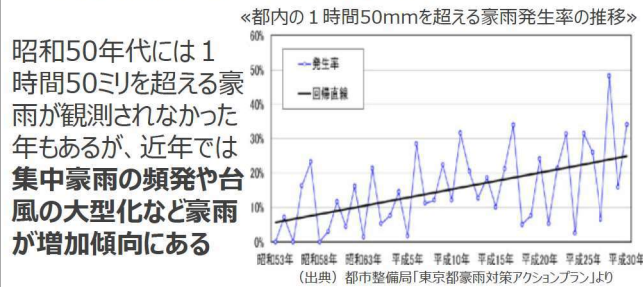


# 都市強靱化プロジェクト（仮称）

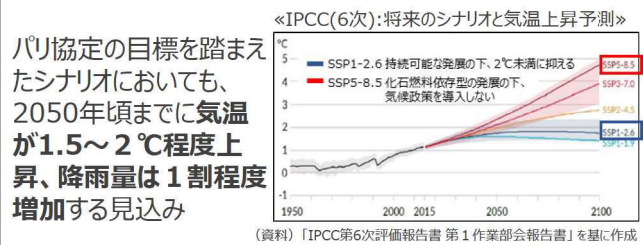
今後、気候変動の影響により激甚化する豪雨災害や、切迫する巨大地震、世界レベルで大きな脅威となり得る感染症の発生など、これまで経験したことのない危機に直面する可能性がある

## 気候変動の影響により、激甚化・頻発化する風水害

### ○近年、豪雨発生率は増加傾向にある

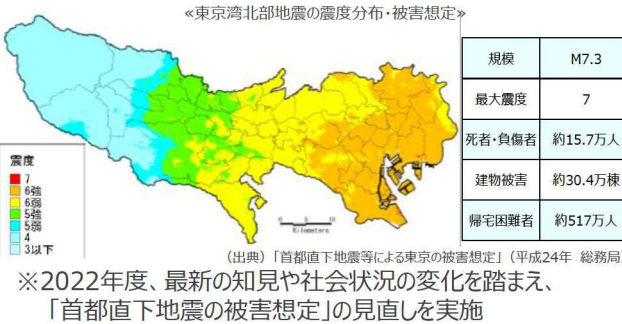


### ○気候変動により気温上昇と降雨量の増加が見込まれる



## いつ起きてもおかしくない大規模地震と火山噴火

### ○首都直下地震は大都市東京に甚大な被害をもたらす



### ○島しょ等の火山噴火による被害のリスク

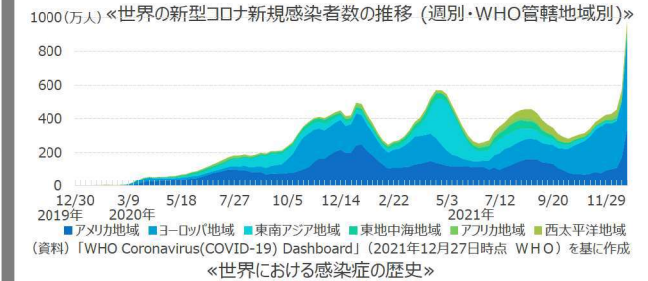
日本は世界有数の火山国であり、近年各地で火山災害が発生している。都の島しょ等の火山が噴火した場合には、大きな被害が予想される

富士山 有史以降の主な火山活動	
800～	北東山腹で噴火。降灰や溶岩流が発生。（延暦噴火）
802年	
864～	北西山腹で大規模噴火。溶岩流で被害。（貞観噴火）
866年	
937年	北山腹で噴火。溶岩流が発生
1033年	北山腹で噴火。溶岩流が発生
1707年	南東山腹で大規模噴火。江戸にも多量の降灰。（宝永噴火）

（資料）気象庁「富士山 有史以降の火山活動」を基に作成

## 世界レベルで大きな脅威となり得る、目に見えない未知の感染症

○近年、国際的に脅威となる感染症が頻発に発生。世界は未だ、新型コロナとの厳しい闘いの真っ只中にある。今後もグローバル化や地球温暖化等を背景に、国際的に脅威となる新たな感染症のリスクが予想される



年代	感染症名	年代	感染症名
紀元前～	痘そう(天然痘)	2002年～	重症急性呼吸器症候群(SARS)
14世紀～	ペスト(ヨーロッパで大流行)	2009年～	新型インフルエンザ(H1N1)
1918年～	スペイン風邪	2012年～	中東呼吸器症候群(MERS)
1981年～	エイズ(後天性免疫不全症候群)	2014年～	エボラ出血熱(アフリカで大流行)

（資料）厚生労働省及び国立感染症研究所ウェブサイト等を基に作成

○新型コロナ危機を契機として都市のあり方に変化。テレワーク等の進展や、オープンスペースへのニーズの高まりなど、生活や価値観の変化が生じている

都民の安全・安心を確保できる強靱でサステナブルな都市を形成するため、データ等に基づき長期的な視点に立った検証を行い、施策を具体化。都庁の総力を結集しこれまでの取組を更にレベルアップ

「都市強靱化プロジェクト（仮称）」を策定（2022年度）

今後10か年の政策目標やアクションプランを明確化